

グループ桂台通信

第179号 2012年8月
発行 グループ桂台
責任者 中村涼子
電話・FAX 894-2735

[グループ桂台は生活支援の非営利団体です]

事務所: 〒247-0033 横浜市栄区桂台南 1-9-2

グランボア 湘南桂台自治会事務所内

URL <http://www.katuradai.com/katuradai.html>

目次

- 1面: 第35回桂台まつり
- 2面: 高齢者の胃瘻造設の是非について
- 3面: 健康アドバイス わがまちの名医から
逆流性食道炎 (その3)
- 4面: 7月度活動実績、ひとりごと他

今年もグループ桂台店は大いににぎわいました!

— 第35回桂台まつり 7月28・29日 —

今年も、二日間とも晴天に恵まれました。会員の方々が持ち寄った品物を安く売るフリーマーケットや、子供たちのための輪投げゲームの景品で店を飾りました。輪投げゲームは、今年も大変な人気でした。



開店直後から、覗き込む子供たち



“よーっ!
一等をねらうぞお!”



夜になって、輪投げの行列・・・

「桂台まつり」へのご寄付・ご協力ありがとうございました

飯野 市田 今西 大泉 大滝 奥山 笠間 勝又 金子(登) 神出 胡麻本 佐藤(恵) 塩月
水渡 鈴木(靖) 鈴木(睦) 鎮目 下西 高橋(福) 滝沢 田代(幸) 橘 千葉 土屋 田野(浩)
寺川 天明(清) 富永(聡) 富永(幸) 内藤 中村(涼) 根本 橋本 牧 長谷川(祥) 古田
藤木 藤間 堀越 本間 宮田 米山 涌井 和田(昭) 順不同・敬称略

高齢者の胃瘻造設の是非について

要介護5で入院中であった私の母を見送ったのは2011年9月だった。享年94歳だった。

その母は、病院のベッドで最後の3年近くは、胃瘻による食物の流し込みによっての生命維持だった。幸い、母の意識は終始明瞭で、ほぼ最後まで意思の疎通ができる状態だった。その間の母自身の吐露した思いも含めて、母に施した胃瘻について家族としての感想をここに記してみたい。



それは、2008年9月頃だったであろうか、嚥下力の低下ゆえ、3度の食事も円滑に取れなくなり、母の顔色は日毎に生気を失せて極度に状態が悪くなっていった。そんな時、主治医と相談して胃瘻の造設手術を施したのが2008年11月、それ以降、母の顔色は、日毎にめきめきと生気を感じる程によくなってきた。胃瘻造設術後の半年間くらいは家族との会話も弾むようになり、それなりに明るく充実した気持ちで日々過ごせたようだ。

しかし、術後半年を過ぎるころから、次第に母の様子は無気力になっていった。交わす会話も、それまでの弾むような快活さが日毎なくなり、家族からの問いかけに対して、合点する時はうなづく様な顔の動きだけ、否の時は首を横に振るしぐさをするだけ、という具合で、最小限の意思表示のための動作しかしなくなった。

そして、時折、母はため息をつくように、“ああ！ 熱いコーヒーでトーストが食べたいねー！” とつぶやくことがあった。母は自身の世代に似合わず、若い時から晩年の2004年に脳出血で倒れるまで、一貫して、大の“朝食はコーヒー/トースト”党であった。そんな時、私は看護師さんには内緒でこっそりと、コーヒーフレーバーの入ったゼリーやアイスクリームを少しばかり母の口に含ませてやった。その時の母の顔は、満面の笑みを浮かべてただ一言“ああ！ おいしいねー！ なんて、おいしいのだろうねー！” と。そんな日の帰り際、私から母に、“もう帰るよ！ また来るからね！” と声をかけると、母からは “ありがとう！ また来ておくれよ！” と返ってきた。こんなやり取りを続けて2年半ばかり、2011年7月の終わりに昏睡状態になり、その年の9月に帰らぬ人となった。

結局、胃瘻の造設によって母の命は3年近く永らえた、と言えるようだ。もし、2008年11月に胃瘻の造設手術を施さなければ、多分、あと数か月の命であったかもしれない。しかし、胃瘻によって生きながらえた3年近くを振り返ってみると、母にとって意義のある3年間といえたであろうか、私は大いに疑問に思っている。一方、私の家族には、これとは異なる考え方をした者がいた。その考え方とは、造設手術の結果、母は術後の半年間は大いに充実した明るい日々を過ごせたので胃瘻の造設は十分意義があった、という考えだ。高齢親族の胃瘻造設手術の適否について、家族がはっきりと決断することのむずかしさを、今でも痛感する次第だ。

— 湘南桂台の一住民の手記 —

逆流性食道炎（その3）

進藤医院院長 進藤捷介氏

「グループ桂台通信」6月号、7月号に引き続き、逆流性食道炎についての紹介です。

ご自分で「大便の色」を良く見てください。

黒い便は、食道や、胃からの出血のことが多くあります。

食道炎、食道がん、胃がん、十二指腸潰瘍などに注意しましょう。

血便は、痔のことが多いが、大腸潰瘍、大腸がん、大腸憩室炎、白血病などのこともあります。

次のような病気も、区別しなければなりません。

区別をする病気（その他の、むねやけがする病気）

1) 十二指腸の悪性腫瘍ガストリノーマ

胃、十二指腸のレントゲン検査や、胃カメラ、十二指腸内視鏡検査で組織を調べる

2) ゴーリンガー病

食道炎を起こすので、むねやけも出ます。

3) アカラシア

食道の動きが悪い

食道に食べ物が残る

食道が広がってしまう（拡張する）

薬を飲んでも、むねやけなどの症状が改善しない

肝臓に「がん」として転移しやすい

4) 好酸球性食道炎（気管支喘息の時によく見られる。原因として、ミルク、大豆、たまご、ナッツ、小麦、海産物などが多い。）

アレルギーによる食道炎

喘息の人で、むねやけがあったら、好酸球性食道炎のことが多い

男性に多い

特に、30～50歳代の男性に多い

女性でも有ります

こんなに種々な病気がありますから、一人で判断せず、医者に相談してください。

自分一人の判断だと、「がん」などが見逃されます。

症状が続く時は、必ず検査を受けて、原因をはっきりさせてください。

早く治療をすれば、今日では、胃がんも、“早く見つければ治る病気”になりました。

症状が出たら一刻も早く、きちんとした検査を受けてください。

ドッグの検査は、どこか悪いところが有るか無いかの検査で、精密検査ではありません。

症状があれば、それに合わせた精密検査が大切です。

今回は、治療についてお話します。

会員のみな様へ

《 活動会員のチケット精算日 》
8月31日（金）午後1時～4時まで

《 ご寄付ありがとうございます 》
和田とく代様 須藤容子様
中西福夫様（書籍）



7月度会員数・活動実績
（平成24年7月31日現在）

会員数		
協力会員	利用会員	賛助会員
88名	102名	99名
活動実績	利用者数	27名
	活動員数	30名
家事支援（掃除・料理）	105件	151.5時間
介助（通院等）・介護	11件	22.0時間
その他	27件	21.5時間
合計	143件	195.0時間
事務局電話当番	20日	60時間

地域のみな様へ

《 ミセコン（店コンサート） 》
日時：8月25日（土）午後2時から
場所：イトーヨーカ堂桂台店 2F
出演者：佐藤慧子
演目：シャンソンとお話
「広島－原爆体験－」

《 夏休み 》
下記の期間、事務所はお休みします。
8月13日（月）～8月18日（土）
緊急の場合は、各コーディネーターにご連絡下さい。

活動報告

- 7/02 桂台まつりゲーム景品買出し
- 7/04 自治会情報 2012 製本
- 7/05 サロン「ぷらっとオアシス」
- 7/10 グループ桂台通信 7月号発行
- 7/12 自治会室移転検討会
- 7/18 コーディネーター会議
- 7/21 ミセコン（店コンサート）
- /21 サロン運営委員会
- 7/22 自治会室移転検討会
- 7/26 桂台まつりフリーマーケット値札付け
- 7/28 桂台まつり出店
- 7/29 桂台まつり出店

ひとりごと



6月中旬、2日間かけて聖地・伊勢神宮を参拝した。

伊勢神宮は来年、第62回式年遷宮（神殿を建て替え、神様を新しいお宮に遷す）を迎える。諸祭・行事は平成17年度より進められており、この度、その一部を拝見することができた。

①内宮の参道口にある宇治橋の架け替え（平成21年度）は終り、檜造りの橋を渡ることができた。

②内宮の新たな神殿の建築現場。現在の社殿の隣で白いシートに覆われていた。

また、当式年遷宮を記念して、今年の4月、外宮の勾玉池のほとりに資料館がオープン。当館は、社殿を再現した模型や映像などで、参拝客に“神々のお引っ越し”への理解を深めていただくために建設されたもので、新たな観光施設となっている。

伊勢神宮はうっそうと茂る樹林に包まれ、静寂で神秘的な光景は、神社の中でも最高位に数えられる神社としての風格を感じ、心を癒す旅となった。

今は、来年の20年に一度の大祭を楽しみにしている。

H・T

編集委員：中村(涼)・佐藤(恵)・天明(清)・奥山・鈴木(靖)